

和歌浦  
紀伊國

〔吾妻鏡〕元暦二年三月廿二日乙巳廷尉○  
義經促數十艘兵船差壇浦解纜云云自昨日聚乘船廻計  
云云三浦介義澄聞此事參會于當國大島津廷尉曰汝已見門司關者也今可謂案內者可先登者義  
澄受命進到于壇濱奥津邊去平家陣三十餘町也于時平家聞之棹船出彦島過赤間關在田浦云云廿四日  
丁未於長門國赤間關壇浦海上源平相逢各隔三町櫓向舟船略下

〔玉海〕元暦二年四月四日丁巳光雅仰云院宣云追討大將軍義經去夜進飛脚札副申云去三月廿四  
日午刻於長門國團合戰於海云々上合自午正至晡時云伐取之者云生取之輩不知其數此中前内大臣  
右衛門督清宗子也内府平大納言時忠全眞僧都等爲生虜云々

〔筑紫紀行〕だんのうらはいづくの邊ぞと問へばそれは長門國にて八島とは海をへだてゝは  
るかに西のかたにて候東國の御かたへはたゞ世に八島だんのうらと申つらね候まゝにだ  
んのうらはやしまのうちならんとも又は八島近邊のうらならんともおもひ給へどもさやう  
には候はずと船人ものしりがほにいふ

〔蓮步色葉集〕和若浦和歌也

〔書言字考節用集〕一  
〔乾坤〕和哥浦  
〔紀州海部郡〕本字弱浦  
〔神龜元勅改弱濱〕名爲明光浦

〔諸州めぐり四〕和歌浦  
〔紀伊〕和歌浦  
〔和歌山里あり〕中略

和歌のうらは南をうけて入海なり俗説に此浦におなみ有てめなみなし故に片男波といふ此  
説非也男波とは大なみなり女波とは小波なりわれもとより其説を信せず略中和歌のうらに  
玄ほみちくればかたをなみと古歌によめるは俗説の意にあらず玄ほみち来れば渴なくなる  
といふ意也其故あしひの方にたづなき來れるといふ意明に聞ゆ略中此浦の佳景聞しにまさ  
りて目を驚せり我此景色をむさぼりみて海邊に躊躇し去事をわすれてときをうつせり略下

〔紀伊國名所圖會〕二  
海部郡和歌浦西南出島浦あり上古はこゝの洲  
なくて一めんの干がたなり中略